



クリーンパーク北但に到着して左手通路(山に沿って)に進むと里山ハウス前に着きます。この建物は、屋外でのイベントや周辺整備の活動拠点になります。初めて来られた方にも分かりやすいように、壁にネームプレートを設置しました。

7月13日(火)～14日(水) 晴れ

ガマ

里の恵みビオトープ内のサツマイモ畑の溝に、2019年より出現していました。当地では新種でもあり、背丈も低く葉だけからは種名が分からなかったのですが、今年は大きく成長し、花穂がついてガマだと分かりました。昔から、若葉を食用、花粉を傷薬、葉や茎は「むしろ」や「すだれ」の材料として使われてきたそうです。さらに今年は、畑の下の池に数多く出現しました。



←アカショウマ

日本固有の植物で、根から抽出したエキスには脂肪の吸収抑制、燃焼促進など、ダイエットに効果的な成分を含む植物です。

オオアブノメ→

里の恵みビオトープの池に昨年から出現している当地の新種です。しかも、環境省絶滅危惧Ⅱ類、兵庫県レッドデータブックのAランク種です。当地のトピックスの1つでもあります。湿地開発や農薬の使用などが減少の主要因とされています。1年草なので翌年も出現する保障はありません。



8月8日(日) 曇り・雨

イベント「植物観察会」を実施しました。

オトコエシ (男郎花)



和名はオミナエシ (女郎花) に対立させる形で、より強豪であることを男性にたとえたとのこと。

数ある救荒植物 (飢饉などで食料が不足したとき、それをしのぐために間に合わせに食料としたもの) の一つです。



葉を触ると、一種異様な臭いがするのがこの名の由来ですが、講師の先生は、良い香りだと賛同を求められます。葉は茶の他に、ゆでれば食べることができ、若葉は山菜として利用されます。果実は草木染に使うと絹糸を鮮やかな空色に、花の赤い「がく」は渋い灰色の染め上がりになるとのこと。

クサギ (臭木)



ナツエビネ



7月から8月にかけて淡紫色の花を咲かせます。当地ではキエビネ同様、数株しか見つかっておりません。

### ミソハギ



盆花としてよく知られています。  
どちらもミソハギですが、花のつくり  
に違いがあります。右の花は、めしべの長  
さがおしべの長さよりも短い「短花柱花」  
と呼ばれ、一方、左の花はめしべとおし  
べの長さが同じ「中花柱花」と呼ばれま  
す。この2つの株は、近い所にあるので

ですが、右の株は、左の株よりもより痩せた地面に生えています。4人が観察している写真は、この「短花柱花」のミソハギを観ているところです。ちなみに、ナスの花を観察したとき、めしべがおしべよりも長い「長花柱花」であれば、肥料が十分に効いていることを示しています。逆に、「短花柱花」であれば、肥料が足りていないことを示しています。

### タラノキ→

当地にはタラノキがたくさん自生していますが、この時期、見事に咲き誇っています。



### ヤマジノホトトギス



昨年ころより株数が大変多くなりました。今年は場所も広い範囲に広がっています。



←ムカゴイラクサ

昨年より、「山の恵みビオトープ」内の湿地に出現しました。いたるところに生えているカラムシと見間違いそうですが、葉の付け根にムカゴが付いています。このムカゴは食べることができます。

オオバノトンボソウ→  
花が終わっていますが、エビネと同じラン科の植物です。里山の間伐を行い、ほどよく日が差す辺りに昨年頃より見かけるようになりました。



「展望の広場」での講習風景



写真左下方にクリーンパーク北但の建物の全景を眺めることができます。

カエデ類についての講習

当地には、7種類のカエデ類があります。名前の由来は、葉の形が「カエルの手」に似ていることから、呼び方を略してカエデとなりました。葉の切れ込みが浅いものをカエデ、切れ込みが深いものをモミジと呼んでいます（植物学的には同じ系統）。英語圏では、シロップで有名なメープルと言います。当地には、イロハモミジ、オオモミジ、ウリカエデ、ウリハダカエデ、ハウチワカエデ、コハウチワカエデ、イタヤカエデがあります。紅葉の時期には、是非、モミジ広場まで足をお運びください。



**こんな所にカエルが！** ヤマアカガエル



尾根伝いの散歩道で突然飛び出してきました。「エ～ 水も無いのに～」と叫ぶ人もいましたが、山の中の木の葉の下などに生息しています。春一番に、ビオトープに降りてきて産卵します。

8月25日（水） 晴れ



植物観察会の反省会で、参加者から散歩道の樹木にネームプレートを是非設置してほしいという意見がでました。かねてから計画はしていたのですが、とりあえずパウチフィルム版をとりつけました。ゆくゆくは樹木で作ったプレートを設置する予定です。

コクラン→

散歩道に入ると、まず竹林の中を歩くこととなります。開発当初から積載されている古い竹を処理するなどして林床整備を進めたところ、今年初めてコクランが姿を見せました。土中で眠っていたか、細々と生育していたと思われます。残念ながら花期が過ぎており、来年こそは花を写真に収めたいと思います。





←コシアブラの花

春には「山菜の女王」と呼ばれるコシアブラに花が咲いています。

春には花を愛で、秋には実を食す樹木は数多くありますが、当地の里山ではたくさん自生している代表格です。爽やかな風の中、散歩道を歩きながら、赤く実った実をちよつとつまんでみるのはいかがですか？



ヤマボウシ